

交流の経緯と経過

沖 裕子

留学生を迎え入れたら、できるだけその母文化と母語に理解を深めたいと念じている。関淳奎さんが学部3年生になり、ゼミのメンバーとなったのを機に、恒例の春の沖ゼミ旅行を行うにあたって、韓国まで足を伸ばしてみることにした。思い立ったのは2000年2月、実施は一ヶ月後の3月のことで、ほとんど準備の時間はなかった。

旧知の研究者姜錫祐氏から、帰国してカトリック大学に奉職した旨の挨拶状をいただいていたので、連絡をとってみるとぜひ会いたいというお返事をいただいた。

そんなこんなで実現したのが、以下の日程である。沖ゼミ生に加えて、石神ゼミの学生も2人参加した。

沖ゼミ（日本語教育学）春の韓国研修旅行

参加者：信州大学側（日本語教育学専攻学生）：引率 沖裕子（助教授）

大学院生 1人

学部4年 5人

学部3年 2人

学部2年 3人

学生計 11人

日程：2000年3月6日～9日（4日間）

3月6日（1日目）

8:40 JR松本駅改札前集合

9:02 JR松本駅発 ワイドビューしなの

11:02 JR名古屋駅着

バスで名古屋空港へ

12:00 名古屋国際空港着

14:30 ASIANA OZ 121 便 離陸

16:20 ソウル金浦国際空港着（カトリック大生の出迎えを受ける）

地下鉄5号線でカンナル駅へ

18:00 宿泊先 テハジャンに到着

18:30 夕食

21:00 宿泊先でカトリック大生をまじえ親睦会

22:00 解散・就寝

3月7日(2日目)

9:00 宿泊先を出発

カトリック大生とともに貸切バスにて天安へ

10:30 独立記念館到着・見学

17:30 独立記念館出発

19:00 宿泊先到着

夕食会(カトリック大生とともに)

3月8日(3日目)

8:45 宿泊先出発

朝食

地下鉄でカトリック大学校へ

11:00 カトリック大学校言語文化学部訪問

国際交流所長文明淑先生ご招待の昼食会

(姜錫祐先生、カトリック大学生とともに)

13:00 於大学セミナーハウス(指導:カトリック大学校姜錫祐、信州大学沖裕子)

記念品贈呈、返礼

独立記念館見学に関する討論会「日韓交流について」

15:00 民族衣装ハンボック・和服体験学習・写真撮影

16:00 夕食会(カトリック大生とともに)

17:00 日語日本文化学科3年生の日本語授業見学・教壇補助体験学習

(指導:カトリック大学校津崎浩一・中野敦)

19:00 姜研究室にて記念撮影

20:00 日本語カラオケへ(カトリック大生とともに)

22:00 地下鉄で東大門へ(両大学学生のみ)

23:00 東大門を散策

27:00 宿泊先到着

9日(4日目)

9:00 宿泊先出発

10:00 ソウル金浦国際空港 到着

12:00 ASIANA OZ 122便 離陸

13:00 名古屋国際空港到着

15:30 JR名古屋駅到着

16:00 同駅発 ワイドビューしなの

18:00 JR 松本駅着 反省会

20:00 解散

カトリック大学からは、姜錫祐先生のゼミ生約 10 人が参加した。信州大学とカトリック大学ともにほぼ同数の学生で、親密で充実した日本語による交流が展開された。

カトリック大学生にとっては、日本語の実際使用の理想的な場面となったし、また、日本側学生にとっては、韓国文化を研修するまたとない貴重な機会を得ることになった。信州大学の留学生である学部 3 年生、関淳奎さんの提案で、独立記念館を見学して討論会をする計画が生まれ、双方の学生は日韓交流史の一端について真剣に勉強し、見学後、討論会を開いて議論を深めた。

また、信州大学学生は、カトリック大学校言語文化学部で行われている実際の日本語の授業に参加して、コミュニケーションアプローチによる教授法を体験し、授業時間内にリソースを提供するチューターの体験もさせていただいた。

準備された民族衣装を体験するほか、日本語によるカラオケ店でコンパを行い東大門の見学をさせてもらうなど、現代韓国の若者文化の一端にもふれることができたのは、学生にとってよい思い出となったようである。

旅の成功は、ひとえに参加者一人一人の熱意のたまものである。しかしながら、カトリック大学姜錫祐先生の行き届いたご配慮がなかったら、これほどまでに充実した実り多い旅とはならなかった。また、姜錫祐先生の御指導のもと、カトリック大学日本語日本文化学科の学生の皆さんの心を開いたあたたかい歓迎ぶりは、私どもの心に強い印象を残している。

カトリック大学校国際交流所長の文明淑先生には手厚いおもてなしをいただき、学生たちにお言葉を賜った。また、津崎浩一、中野敦両先生には、日本語教育の授業の見学を快くお許しいただいたばかりか、教壇補助者として信州大学学生の授業参加を導いていただいた。

日本側では、石神照雄先生の「気をつけて行ってらっしゃい」の見送りに加えて、信州大学同窓会から合宿に伴う御援助をいただいている。

今回の計画実施で賜った有形無形のご厚意に対して、心からの謝意を表すものである。

(2000 年 4 月)

(信州大学人文学部・助教授)